



# 太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより  
令和6年1月号(第11号)  
令和6年1月9日発行

## 【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

## 【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

## 「辰年」のスタートに当たって

校長 三島 公夫

新しい年が明けました。皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。

元日から惨事が続きました。「災害や事故は、いつでも、どこでも起こりうる」と分かっているはずですが、「どうしてお正月に……」と胸が痛みます。この度の能登半島地震や航空機事故により、亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災等をされている方々にお見舞いを申し上げます。

さて、第2学期の終業式で、新年を迎えるに当たって次のような話をしました。

『新しい年が明けると、よく新年の目標を立てます。新年の目標は、4月や学期の始まりに立てる目標とは少し違った意味もあります。年の初めに目標を考えると、「〇〇ができるようになる」とか、「□□を達成する」というような具体的なめあてを考えるだけでなく、「どんな人間になりたいのか」、「こういう生き方をしてみたい」というように改めて自分を見つめることです。自分の夢について考え、夢の実現を目指すことを心に誓う節目なのです。』

普段の生活の中では常に時は流れていき、目に見える区切りになかなか気が付かないものです。しかし、大晦日から元旦への時の刻みの中では、「初詣」とか「心機一転」という言葉が意味するように、気持ちを高めたりリセットしたりすることも多いのではないのでしょうか。

自分の夢を考えたり、自分を見つめたりするきっかけとなるよう、今年度、子どもたちに伝えていることが3つあります。それは、①「本気で学ぶ」＝「しっかり学ぶ」こと、②「昨日の自分を超えていく」こと、③「自分(の命)や自分の幸せを大切にする。それと同じくらいに友達の幸せも大切にしてほしい」ことです。①については4月の始業式で詳しく説明し、本気で学ぶと「学ぶことは楽しい」と気が付くはずだと話しました。②は第2学期の始業式で取り上げました。学ぶとは友達との競争ではないこと、コツコツと努力を重ねて自分で定めた目標を達成していくこと、いつも、いつまでも挑戦を続けてほしいことを伝えました。

そして、③です。「それと同じくらいに友達の幸せも大切に」というところが重要です。「本当の幸せ」とは、自分も幸せだし、周りの人も幸せだということ。今回の地震で被災された方が炊き出しの熱い汁物をすすりながら、「人の温かさにあたたまる」と言っていた姿をテレビで観て、思わず涙がこぼれました。自分だけでなく周りの人のことも想ってくれる人がいるから、辛いことも我慢できるのかもしれない。元日に通読した全国紙3紙の社説には、「紛争多発の時代に 暴力を許さぬ」、「人類の危機克服に英知を」、「平和、自由、人道で新時代開け」など、どの社説からも平和を願うメッセージが伝わってきます。地球に住む全ての人々に「本当の幸せ」がありますように。③については今日の始業式で話しました。

今年の干支「辰」には「グーンと上に伸びていく」という意味があるそうです(チコちゃんに教わりました!)。辰年の2024(令和6)年、常盤小学校の子どもたちがますます伸びていく一年となるよう、本気で教育活動に取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いたします。